



市政を刷新し清潔な堺市政を取り戻す市民1000人委員会編

市政レポート第12号

2023年2月

市民にやさしい堺市政を創る

新春

KICK OFF

のつどい



市民 1000 人委員会は「市民にやさしい堺市政を創るキックオフのつどい」を 2023 年 1 月 8 日（日）午後 2 時から 4 時までサンスクエア堺ホールで行いました。集会参加は 205 名でした。

そのご報告を『市政レポート第 12 号』としてお届けします。

司会は、吉村 薫さん（南区在住）でした。

ご出席の堺市議会議員の皆さん

石本京子さん
乾恵美子さん
木畑 匡さん
小堀清次さん
西 哲史さん
長谷川俊英さん
藤本幸子さん
洲上猛志さん

（五十音順）

も く じ

	ページ
*開会あいさつ	
山上雄大さん（関西学院大学学生、市民 1000 人委員会事務局）	2
*第 1 部 スタンダップコメディ	
維新を笑い飛ばす ぜんじろうさん	2
*第 2 部 ゲストスピーチ	
静 ^{やすぞう} 又三さん（元堺市自治連合協議会会長）『自治の現場から』	3
石井雅彦さん（元堺市教育長） 『教育の現場から』	4
野村友昭さん（前堺市議会議員） 『公共の再生をめざして』	7
*第 3 部 パネルディスカッション “市民にやさしい堺市政を創るために”	10
パネラー	
天野隆次さん（堺市北区自治連合協議会会長・金岡南校区自治連合会会長）	
近藤真理子さん（太成学院大学教員）	
森田奈菜絵さん（3 人の子育てママ）	
野村友昭さん （前堺市議会議員）	
コーディネーター 山上雄大さん（関西学院大学学生、市民 1000 人委員会事務局）	
*閉会挨拶	
塩野直美さん（市民 1000 人委員会事務局）	22
*市民にやさしい堺市を創る 市民 1000 人委員会の活動	23
*堺市選挙管理委員会 市長選日程を 5/21 告示～6/4 投開票と決定	24
*第 4 期会計報告	25

開会あいさつ

山上雄大さん(関西学院大学学生・市民 1000 人委員会事務局)



皆さんこんにちは。関西学院大学の経済学部で学生をしています山上雄大と申します。

本日はお集まりいただきありがとうございます。大学で政治学を学んでいるちょうど 4 年前に市議会議員さんの下でインターンをさせてもらったのをきっかけにこのように政治に興味を持つことになりました。

4 年間を振り返ってみると大学生という立場で一番残念だったなあとすることはコロナの時に学生に対する援助が何もなくあったというのはすごく残念だったなあと思いました。

今日は、皆様の意見とかを共有できるいい場にしたいなあと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は 3 部構成で集会をさせて頂こうと思っております。

第 1 部としてぜんじろうさんのスタンダップコメディ維新を笑い飛ばすです。初笑いをお楽しみいただけたらと思います。

第 2 部は堺のお二人の重鎮堺市自治連合協議会の元会長の静又三さん、元堺市教育長の石井雅彦さんからそれぞれ自治の現場から、教育の現場から提起を頂きます。

前市議会議員の野村友昭さんからは公共の再生を目指してという事で問題提起を頂きます。

そして、第 3 部は、北区自治連合協議会の天野隆次さん、太成学院大学教員の近藤真理子さん、3 児の保護者である森田奈菜絵さんが、野村友昭さんを交えて市政について語り合います。

盛りだくさんの内容でご用意していますので皆さんどうぞよろしくお願い致します。

第 1 部スタンダップコメディ

維新を笑い飛ばす

ぜんじろうさん



ぜんじろうさんのご紹介

1968 年姫路市生まれ。

大阪芸術大学退学後、上岡龍太郎に入門。漫才コンビを結成し数々受賞するが 2 年後解散、ソロ活動開始。

大阪 MBS「テレビのツボ」「ヤングタウン」や東京でも多数メディアに出演の後、海外でスタンダップコメディアンとして活動。

さかざまな国々で笑い、ユーモア & コミュニケーション等の講演多数。

第2部 ゲストスピーチ



第2部

ゲストスピーチ

市民の声を聞くこともなくリモートばかりの市長、タブレット端末ばかりの授業でいいのか、組織のマネージメント、歴史ある都市堺をマネージメントしていくのにふさわしいのは誰なのか、縦横に三人の皆さんが語られます。

報告：自治の現場から

静 ^{やすぞう} 又三さん(元堺市自治連合協議会会長)

只今ご紹介をしていただきました堺市自治連合協議会の会長をさせていただきました静でございます。

今日は自治会ということに対して反省するようなところでございます。今日お集りの皆さん方には自治会というものがある程度分かっているかなあと思うわけでございますけど、私がやっているときには堺市の中でも55くらいの自治会があったように思うのですけれども、現在では30から35くらい。「何でこないなったのかなあ」ということでございます。

けれども、今日も北区の天野さんがお見えですがこの前も役員会で質問していただいたということでございますけど、やはり、これからの金のたまごというと一保育所、幼稚園、小学校、中学校、これはやはり日本の金のたまごだと思っているわけでございます。けど、人口が減ってきた中で、「お金儲けせな教育はやっていかれない」ということでございます。けどやはり朝の登下校、見守り隊をやっていただくお年寄り、となるとなかなか協力をしていただけない。そやから行政から協力金も出て見守りにも参加していただき、すくすくと伸びる子どもたちの安全を見て欲しいなと思うわけでございます。

行政そのものは、司会者の人が先ほど言われたように、せっかくみなさんのおかげで堺が政令指定都市になったのに、その政令指定都市がどこへ行ったのかなあ、堺が堺で決められないような状態になっているのは、今の堺の市長が、私が飼っている犬と一緒に大阪府・大阪市のポチになってるなあと。



これは、今日お集りの皆様、同志でございますので、やはり何が何でも話し合いのできるポチになっていただきたいなあと思うわけでございます。

竹山さんはちょっといかんことをしてこうなったんやけど、やはり話はきいていただけた。今、リモートばかりで自分の思うこと言うて、こっちの言うことを少しも聞いていただけないのがこれが非常に困るなあ、やっぱり私らは80を回ってる人間でございます。枯葉マークのついている人間でございますけど、やはりある程度、こういうふうな形にしたことに対して責任があるわけでございますので、何が何でも皆さんとともにこのポチの頭を切り開いていきたいなあ、と思うわけです。

やっとな選管が市長選挙を分けて選挙するということになりましたのに、こないだのテレビで、「私より立派な人が出てきたら降りる。統一選挙で一緒にやりたいなあ」というのが維新の考えでございますので、私は「この永藤さんがあと3か月の間にやめるんとかどうか、選挙を同時でやろう、そういう考え持ってはるんちゃうかな」とおもいます。永藤さん、自分の考えが全然ない、上から言われた通りでございます。

今、自治会活動はそのものはすべての補助金は切られております。活動するのにお金かかっていますので、何とかやっぱり話し合いのできる市長さんに変えていきたい。かように思っています。何とか皆さんと団結しながら、この選挙に野村さんを、と思うのでございます。どうもありがとうございました。

報告：教育の現場から

石井雅彦さん(元堺市教育長)

石井と申します。よろしくお願いします。

もともと小学校の教員をしていて23年前に堺市教育委員会学校指導課に勤め始めました。そのころは「学校の荒れ」が大きな課題でした。月に1回ぐらい「中学校のガラスが100枚割れました」という記事が新聞に載りました。指導主事として学校へ行くと堺の半分ぐらい中学校で、授業に入らない、校門や非常階段の下の方で遊んでいる、廊下でうろうろしている生徒がおり、生徒指導の先生が後をついているという状況でした。

私は学校に行ったときにできるだけその子たちに「なんで教室に入れへんの。」と声をかけるようにしてきました。「おっちゃん誰、どこから来たん」と結構フレンドリーに応えてくれます。生徒の言うことは、どこの中学校でもだいたい一緒です。「授業がおもしろない」「勉強分からん」ほとんどの子がそう言います。学校訪問を続けていく中で、中学校の荒れというけれど根本は授業の中の学びに問題がある、分からないのに6時間ずっと授業に参加しなければならないしんどさを解決しなければならないと思うようになりました。



平成 19 年に全国学力状況調査という学力テストが初めて行われました。堺の結果を見ました。議会でどんな風に言われたかと言いますと、文教委員会というところで「全国最低レベルの大阪府の結果、その平均を下回る堺の結果、学校指導課はどうするのか」と質問されました。厳しい結果でした。

結果を見ると二つの特長がありました。一つは、知識理解はできているのですが考えを書くということが出来ていない。これは授業の問題なので、秋田県や福井県に学び、授業の改善に努めました。もう一つの特長は、小学校 6 年生で 0 点から 10 点までの子が多い。ほとんどテストに向かわない子、やろうとしない子が全国の 3 倍くらいありました。そのことが平均点を大きく下げる原因となっていました。この層の多さが、生徒指導上の課題とも関係があると考えていました。

そこで始めたのが堺マイスタディ事業です。その子たちには、ひとり一人の学びにいていねいに向き合っていく必要があります。放課後の時間を使い、地域の人たちの力をお借りして始めました。小学校では、算数が中心でした。小学校 3 年生から 6 年生を対象にしており、3・4 年を中心にやっている学校が多くありました。小学校から学習に向き合えていない子どもが多いことへの対応として、地域の方たちの力をお借りし、退職した教員や学生のボランティアも参加して堺マイスタディ事業を続けてきました。

その結果、平成 25 年以降、小学校 6 年生の算数は全国平均を上回ることが多くなりました。堺の小学校は、国語の結果は全国平均に届かないのに、算数はよい成績を取れるようになりました。このことは、10 年間にわたって学びのうまくいかない子たちを下支えしてきたマイスタディと関係があるのではないか、と思っています。

ところが、今回、ギガスクール事業で一人一人が端末を持つ、高速ネットワークにアクセスする環境をつくるのでお金がかかるということでこの事業は切られてしまいました。

また、「中 1 ギャップ」といって、中学校に行くときに急に不登校、暴力行為やいじめが増えるという問題もありました。当時は、生徒指導上の決まりが中学校で急に厳しくなるとか、授業のやり方が違うといったことがありました。そこで、小中一貫、中学校区で子どもたちの生活や学力を見ていこうという事で、中学校に小中一貫教育推進リーダーという教員を市単費で配置しました。

その先生は小学校で授業したり、夏休みに小中の先生が集まって生活や学習のルールをつくる中心となったり、中学校区としての学びの中心となっていました。この事業もギガスクールでやめになっています。市単費での教員配置で大変お金のかかる事業ということでやめになってしまいました。

ギガスクール事業は、小中学生一人一人が端末を持って高速のネットワークにアクセスするということで非常にお金がかかります。ただ、端末は 1 台 4 万 5000 円、これはすべて国の補助金で賄われているはずなのです。補助金というのはこれにしか使ってはいけないというお金です。教育のことは多くが地方交付税交付金といって市が自由に使うことができ、市の裁量がある。しかし、補助金はそれに使わなくてはいけないお金です。端末代

は、国の補助金で賄われています。高速ネットワークの整備についても 2 分の 1 は国の補助金で賄われます。残りの 2 分の 1 の 60%は交付税措置されているはずで。つまりギガスクール事業は、かなりの部分を国が補助金で整備していく事業です。

ところが、この間の堺市教育委員会の予算を見ると、ギガスクール以前とほぼ同じ金額となっています。補助金が、今までの予算の上ののっていかないといけないのに、その分は乗らないで予算はずっと毎年同じレベルなのです。予算が変わっていないのに、堺の子ども達を支える事業がどんどん削られている。国の補助金分だけ、これまでの教育予算が削減されている。これは大きな問題だと思っています。

学力や生徒指導のことを話してきましたが、堺は個性を伸ばす事業もやってきました。「アートクラブグランプリ・イン・サカイ」という事業です。全国の中学校美術部生徒の作品を東文化会館に集めて全国大会をやる。北海道から沖縄まで毎年 4000 人くらいの中学生在が応募してくれました。堺には「部展」という堺だけの展覧会はありませんが、府や全国の大会がない。中学校の校長先生や美術の先生のもっと高いレベルの作品を全国の仲間と切磋琢磨することで作ってほしい、という思いからつくられました。これも中止になっています。財政が厳しい。ギガスクールのお金がいる。

実はこれからお話いただく野村さんとは、東文化会館での初めての表彰式で挨拶させていただきました。全国大会というのはお金がかかるということで、美術関係の会社や地域の団体に協賛のお願いしていました。野村さんは社会福祉法人のお仕事をしておられるという事で、まだ市議会議員になられる前なのですが、協賛していただいてご挨拶させていただきました。その後、市議会議員になられたという事で「すごいなあ」と思っていました。その頃から野村さんは「子どもに対する暖かい目や市民に対する暖かい目を一貫して持って行動しておられる。」というように思っております。

現在教育行政というのは市長の持っている権限がどんどん大きくなっているのです。

一つは財源。予算を教育委員会は持っていないのです。市長や財政当局が予算をつけてくれなかったら教育行政はできません。もう一つ数年前から教育委員長の職がなくなって市長の権限が強くなっています。総合教育会議という会議が年に 3 回程度行われており、市長が教育委員、教育長を集めて行います。総合教育会議では、堺市の教育行政はこれからこうしていくという事を市長が示すことになっています。また、教育委員は市長が任命しますので市長の意向が入りやすくなっています。そういう点で市長が堺の子どもたちに目を向ける人なのか、それとも票をとるために市民うけすることを並べて行政をするのか、市長が誰になるかによって堺の教育は大きく変わらと思っています。

私は子どもたちに暖かいまなざしを持ち、発達の課題に苦しんでいる子、学びの課題で苦しんでいる子、コロナ禍の経済状態で苦しんでいる子、そういう子どもたちの実態を踏まえた施策を応援してくれる市長さんになってほしいな、と思っています。ここにおられる皆さんと子どもや市民に暖かい市政を作っていけたらいいな、と思っています。

報告：公共の再生めざして

野村友昭さん(前堺市議会議員)



改めまして皆さま明けましておめでとうございます。
新年にあたり一言皆様方にご挨拶させていただきたい
と思います。

今日は本当に盛りだくさんの催しでございまして、
第一部のぜんじろうさん。楽しい時間を過ごさせてい
ただきました。

新年ということで、雑学から始めます。

今年はいさぎ年（うさぎ）でございまして年頭から企業の社長
さんやテレビのアナウンサーとか、みんな、うさぎ年ということで、「ぴょんと跳ねる年に
したい」というお決まりのフレーズをおっしゃっておりますけども、実はうさぎっていう
のはいわゆる干支（えと）で言うたら片方だけです。ご存知の方もいらっしゃると思いま
すけれども、干支っていうのは十二支と十干っていうのがございまして、十干っていうの
は、ウサギの前にまた一つ漢字が付くんですね。それでいいますと今年は癸卯（みずの
と・う）ということになっておりまして。十干というのは、甲乙丙丁…の今年は癸（みず
のと）一番最後の年になっています。

昔中国の賢い方がいらっしゃって、世の中のものが全部ぐるぐる回っている。生き物に
しろ、国にしろ、空の星にしろ。ぐるぐる回ってるってことに気付いてこれを読み解くた
めに、暦というものを作って干支というのができたっていうのが由来だそうでござい
ます。

私年頭に当たってはいつも干支についてお話しするんですけども今年癸卯（みずの
と・う）という年が一体どういう年ということを調べました。干支の「ね、うし、とら」
という動物は、後世になってから、干支（の字）がむずかしいから、動物をあてはめただ
け。ですから、ネズミとか牛とかの意味はなく、語呂合わせみたいなものです。

卯は「ぼう」という音もありまして例えば貿易っていう言葉ありますけど、貿易の「貿」
のかんむりが「卯」。つまり、なんかやりとりするっていう意味があるらしいですね。

「癸」はどんな漢字かって言うと「はつがしら」出発の「発」の上の部分。はつがしら
に天地人の「天」を書いて「癸（みずのと）」と読む。これを「癸（き）」と読む。甲・
乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の最後が「癸（みずのと）」。これはどういう意味か
というと、百姓一揆の「揆」のてへんをとったもの。意味は「揆」と同じで、物事を計る、
計画する、そういう意味があるそうです。

で、癸と卯とが合わさって、今年は大きなことをやるための準備とか計画をするべき年
であるとなっているそうです。

来年非常に大きな事業をやるのであれば、今年はしっかり準備をなさいよという意味
が込められてるそうでございしますので、しっかり準備する年になるよう私もがんばってい
きたいと思います（拍手）。

今年コロナも、昨年末ぐらいからある程度一定の区切りがついて、今後どういう風な
形になっていくかというのが見えてきた年であると思います。

しかしながら約 2 年あまりの期間に、日本全体あるいは大阪においても、経済や政治や

学校教育現場それから医療福祉、様々な分野で変化が生じた年でございました。

新しい時代が始まるということで、我々がコロナと一緒に付き合っていく、どういう生活様式を作っていくかということは、皆さんと考えていけないと思いますけども、私がコロナ禍の間に感じたことで一番重要なのは、やっぱり公共の役割だだと思います。それはどういうことかと言うと、簡単に言いますと政治の判断で人の命が失われるという非常に厳しい現実でございました。

ご承知の方もたくさんいらっしゃると思いますが、大阪はコロナの死者数で全国ダントツのワースト 1 位です。さらには経済政策もガタガタで、企業倒産件数、割合ではなく件数で、東京をぬいてワースト 1 位。それ以外にも、先日発表された交通事故の死者数も全国ワースト。先ほど石井先生からお話があった学力もワースト。さらに刑法犯罪の認知件数、すなわち我々の感じる治安、これも全国ワースト。

一体何があったらこんなことになるのでしょうか。大阪は全国の中でほとんどの生活にまつわる数字で下から数えた方が早いような状況です。ただ、ひとつ大阪が 1 位なのを探しましたら、芸人さんの出身県は全国 1 位ということです。吉本興業さんがいらっしゃるからかも知れません。

我々の生活にからむことでは、大阪はまともに行政が、公共が機能していないという部分があると思います。この結果をみれば維新政治が始まってもう既に 10 年になります（* 編者注 橋下府知事当選から 15 年、大阪維新の会の結成は 2010 年）。これまで維新のやってきたことが間違った、あるいは彼らに政策立案能力がない。実行力もないというのは私は明らかだと思います（拍手）。

昨年、私はカジノの問題に力を注いできました。あの夢洲の開発に使ったお金があれば一体我々の生活に対して何ができたでしょうか。

医療体制の充実ですとか、もっと有効な既存中小企業への支援とか、子ども達のケア、あるいは経済的に困窮している方々への支援、さらには道路の安全対策、警察官の増員や教員の職務改善、役所の業務改善……。いくらでもやることが山積していると思います。

それを観光やカジノや万博に傾倒して、お金あるいは行政のリソースというものを浪費している。これが今の大阪の停滞の原因だと私は思います（拍手）。

こんなおかしいことは本当に終わりにしないといけない。もう限界に来ている。そういう状況に今あるのではないのでしょうか。

翻って、堺市はまだ希望が持てます。これまでの堺の市長選挙においても、堺の市民の皆様方はさまざまな面で良識を発揮してきたと感じております。前回の市長選挙、私が立候補して敗れましたが、いただいたのは 12 万 3771 票。当選した現市長との差は 1 万 4091 票。惜敗率約 90 パーセントでした。これは本当に皆さまのお力だと思っております。

さてその四年間、現堺市政は一体何をやってきたのでしょうか。一言で言えば、演出された「財政危機」を理由に何もやってこなかった、というのが現実だと思います。



わずかでもやろうとしたこともできておりません。気球はまだ飛んでいません。ベイエリアも開発がすすんでおりません。(バスの)自動運転は失敗しました。水道料金の値下げは実現しておりません。今やってる基本料金(値下げ)、これは国の臨時交付金によって行われているものでございます。お出かけ応援制度の改悪は、皆さんの頑張りのあって議会で二度も否決されました(拍手)。これらを改めるというだけで公約になるんじゃないか、と思うくらいひどい状態です(拍手)。しかし、それを改めますというだけでは、また対案を出せと言われると思いますので、しっかりとこれから政策というものを示していかなければならないという風に考えております。

それは、私は以前から政治の考え、公共に対する考えは変わっておりません。

もっとも大事なものは「堅牢な公共」の構築であると考えます。誰ひとり取り残さず一人でも多くの人々を救う。それが公共の役割ではないでしょうか(拍手)。

今物価高騰に苦しむ人々や、母子家庭の方で本当に毎日食べるご飯がないといって困っている方がいらっしゃいます。そういった方々にきめ細やかな救いの手を差し伸べることも必要です。あるいは、教育現場の立て直しを図って子ども一人一人に行き届いた学校環境を作ることも必要です。また全ての方々が頼りにできるような医療体制や福祉の構築も必要でしょう。さらには地場産業と地域の中小企業に対する支援をしっかりとやり、そして地域の産業を育てていく。こういった取り組みも必要であると思います。

そして誰もが安心して暮らせる安全で便利で快適なまちづくりや地域づくりを行っていく。それも重要なことであると思います(拍手)。

そのために今の堺市役所に最も欠けているのは、その堅牢な公共の担い手である職員にやる気を感じられないことではないでしょうか。行政のトップに求められる職責、それは公務員としての職員の皆さん、先生としての教職員の皆さんにプライドや、誇りや、やりがい、やる気を芽生えさせること、私は組織の「マネジメント」が最も重要であると思います。一つ一つの政策よりも多くの職員の組織である堺市役所が機動的に機能するような職員マネジメント、組織マネジメントというものがこれから必要になってくると思います。それが私たちの本当に身の回りの暮らしを変えることになる。子ども達の未来を変えることになる。そのように私は考えます。

今年の6月、もしかしたら4月かもしれません。堺市民は大変大きな判断を迫られることになるかと思います。政治は誰がやっても同じではありません。そのことをこれからもしっかりと堺市民の皆様方一人一人に伝える努力を皆様方と一緒に続けてまいりたいと思います(拍手)。

どうかよろしくお願い致しまして私の新年のあいさつとします。

本年もどうかよろしくお願いします。
ありがとうございました(拍手)。



第3部 パネルディスカッション

市民にやさしい堺市政を創るために



第3部

パネルディスカッション

パネラー

天野隆次さん

堺市北区自治連合協議会会長

金岡南校区自治連合会会長

近藤真理子さん

太成学院大学教員

森田奈菜絵さん

3人の子育てママ

野村友昭さん

前堺市議会議員

コーディネーター

山上雄大さん(関西学院大学学生)



《山上》

こんにちは、山上雄大と申します。よろしくお願いいたしますします。

これから市民にやさしい堺市政をめざしてパネルディスカッションをしていくのですが、まずはじめに自己紹介をしていただきたいと思います。

《森田》

北区に住んでいます。三児の子育てママという事で呼ばれました森田奈菜絵と言います。

一番上から9歳5歳4歳の三人の子どもがいます。一番上の子はダウン症で障害を持っているのですが、ダウン症の障害を持った子を抱えながら子育てしています。今日は一番上の子に焦点をあてお話ができたらいいなと思っています。よろしくお願いします。



《近藤》

近藤真理子と申します。太成学院大学の教員をしています。堺市生まれです。太成学院大学は美原区にあるのですが、教員になる前はプレミアムプランの時に子育て支援のボランティアを立ち上げてお母さんたちと手当をしていくという事をやってきました。

そんな中で、外遊びが出来てないなあ、と思いながら外遊びの会をしたり、堺の子育て広場のエントリーをしようと思ったときに「公園のある施設でできませんか。」「そなんありません」みたいなそういう中で「遊べない子がよおけおるなあ。」と思って、現在教員をしています。

うちの大学では、幼小中高の教員免許がとれるのですが、遊べて来てない子どもたち、ミレニアムプランの時に生まれた子どもたちが今先生になります。遊びを知らない子どもたちが学校の先生になります。その子たちをなんとか遊べて子どもと関わっていける教員にしたいなあ、そのための養成と場づくりという事に関わっています。どうぞよろしくお願いします。



《天野》

皆さんこんにちは、ただいまご紹介頂きました天野です。

ちょっと付け加えさせていただきますが、北区連合協議会長と書かれておりますが、金岡南校区自治連合会長と堺市自治連合協議会副会長をさせてもらっています。

私は北区連合協議会の会長就任から約6年が経過いたしました。6年という長い年月は今振り返ってみますと、大変なことが多くありました。

なぜなら、ボランティアということです。報酬をなしでの活動です。

身銭を切ることも多々ありました。校区民の皆さんはどう思っておられるでしょうか。皆さん方にご承知いただき、一生懸命地域のために、子どものため、頑張っています。どうかよろしくお願いいたします。



《野村》



改めまして野村友昭でございます。

私も子どもが今小学校5年生と中学校3年生の子が堺市立の学校におりまして、私もPTAの役をやらせていただいておりますし、また父親も20年ぐらい自治連合会の会長をしておりましたので、自治連合会、私も入ってますので本当に地域のことをよく分かってるつもりでございます。

今、本当に堺市から補助金が降りてこなくなってきました。学校現場に関して言えば、石井先生の方からもありましたけれども、子どもたちの情緒教育っていう部分で、鉛筆とか筆持ってアナログでものを書くというのは絶対に大事なんです。先程ちょっと

話されていましたがアートグランプリといういわゆる「中学校の美術の甲子園」と呼ばれたような素晴らしい大会だったんですけど、これ十年くらいやっていたと思うのですがなくなってしまいました。これ私が通っていた時、私が中学校やった時と私が自治連合などの役をやったりとかしてる時の中学校の校長先生が美術でしてその先生がご尽力されてやっておられたという催しだったんですけど、「なんで辞めてしまうのか。それを辞めてまでタブレット端末を入れないといけなかったのか」という事は今の堺市の教育行政に非常に疑問を感じております。

これは皆さん、改める方法を考えていかないといけないなと思います。よろしくお願いします。

《山上》

現堺市政において見えてくる問題というのが様々の所から語られたと思います。

市政に対しての思いをお願いします。

《森田》

一番に保育士もなんですけど「学校の先生を増やしてほしいな」というのを切に思っています。というのもうちの一番上の子は九歳で支援学級を利用しているんですけど、支援学校の先生が長期休みの後、学校が始まると休みはるんです。心の病気を持っていたり、あと今年で言えば夏から産休に入られるということで先生が一人に欠けたんですね。なので夏休み明けていざ子どもが行くとなると、学校の先生二人がおらなくなって、「学校行きたくない」と言って、「なんで」と聞いたら「だって学校の先生休んでいるもん」と。「私も仕事あるので頑張って学校行ってな。」と言ったら「がんばる」と言ってたんですけど、担任の先生が元気でこそ子どもも学校に行けるんじゃないかと思うのです。

ただ、コロナ禍で学校の先生も休まなあかんことが多々出てくるので、そういった時にも対応できるような大人の数を学校に入れてほしい。それは私が子育てをしている中です

ごく思っています。

下二人は保育園に今通っているのですが、保育園の中でもそうなんです。やっぱりコロナで先生が休まなあかん状況もお子さんを育てながら保育士をやっている先生もたくさんおられるので、本当に学校の先生を増やして欲しいなと思っています。

それを教育委員会に「介助員さんだけでも増やしてほしい」と去年電話してみたら「予算の関係があるのでやっぱり次年度からですかね」と。でも今切に思ってるんですけどやっぱりクレイマーみたいな感じで軽くあしらわれてしまうので、やっぱりどこかに声を届けないと思って今日はここに来させてもらいました。

《山上》

私も堺の小学校でスクールサポーターをしていたんですけど、予算の関係で急に呼ばれなくなったんです。いろいろなところに影響が出ているのかもしれませんが。一方で、大学で教員を養成していく立場としてはどうお考えですか。

《近藤》

堺市の教員の非正規率は 20%を超えていて、全国ワースト 1 です。先生の 5 人に一人は非正規教員です。5 クラスあればそのうち 1 人は講師の先生ということになります。

もちろん再雇用の先生もおられますが、ベテランとはいえ、その先生になんでも頼むわけにはいかないし、一度退職なさった方に主任や主事というわけにはいきません。講師の何が課題かと言えば、1 年雇用であるということ。中学校なら 3 年間、子どもたちが入学をして卒業をするまでの見通しを持った指導や取り組みができない。その場しのぎの指導や活動にとどまるということです。何か楽しいことをしたいな、と思っても 自分は来年いないかもしれないから、中途半端なことはいえないし、計画もできないということになります。

さらには 1 年間で雇用がなくなるために、来年の教員採用試験に合格をする必要があります。そのために、できたら不登校の子の家庭訪問や、学級通信を書くよりも勉強をしたい。それでも家庭訪問もしつつ、教採の準備もということになると どちらも中途半端です。地に足のついていない感じで学級経営をしても、うまくいかない部分もたくさんでてくる。あるいはまじめに学級経営も教科指導も教員採用試験対策も全部やろうとしてつぶれてしまうそんな先生もいます。

そこをほかの教職員がサポートをする。4 人で 5 クラスをみるという形になっています。そんな状況が、教員の忙しさを加速させています

平成 29 年のいじめの件数の数は平成 29 年 384 件から令和 3 年は 3747 件と小学校で 10 倍になりました。不登校は 5 倍です。現状、不登校は小中学校併せて 1600 人、全体の

0.02%が学校に行っていません。中学校ではいじめが平成 29 年 369 件から 569 件、不登校が 569 件、令和 3 年で 878 件です。

これは何を表しているかと言うと学校でのしんどい感じが子どもの行動に出ていうことです。不登校やいじめをこどもの問題行動という言い方をするようになって久しいですが「問題行動」ではなくて、学校等の問題が子どもの行動に表れているだけで、「学校の問題を表した行動」であるというとらえ方が必要で、変な省略は誤解を生む。

中学校でのいじめの件数がそれほど増えていないのは、増えていないのではなくて、認知をされていないだけで、実は SNS やネット上でのいじめはわかりにくく、不登校や学校に行っているけれど、「無視」といういじめとして最も分かりにくい形で表れていることも考えられます。

《山上》

地域の目としてはどうでしょうか。

《天野》

先に申し上げましたが、連合自治会という組織は本当に難しい団体です。

会社であれば、こうなさいと上からの命令が伝わりますが、連合会では上からの目線でものを言いますと、反発が来ます。

「俺はお前からお金をもらっていない」その通りですね。

従って仕事をお願いするには、自らが率先して仕事をして、ついてきてほしい、と思い現在までやってきました。

子どもの話をさせていただきます。私の校区金岡南小学校は、1,148 人という堺で一番のマンモス校です。

登校、下校時には大変な児童の波です。

学校の東門、東南の角に府道富田林線の交差点があります。

登校時には東地区から来る児童は東から西に又南から北にわたります。

自然の流れに任すと後方の児童がわたる時は信号が点滅します。従って後方の児童は走りだします。

大変危険です。そこで、子ども見守り隊の皆さんが知恵を絞って 50 人を一つのグループにして誘導することにしました。

結果はいくらかは、危険の解決は出来ました。それでも、なかにはついてこれない児童も散見されます。

そこで、北堺警察・大阪府警本部に陳情、歩車分離型信号に変えてと要望しましたが、歩車分離型信号は車の渋滞を起こすとの回答でした。

それでもなんとかしてほしいとお願いの結果、南からの北にわたる信号機の青ランプを少し長く調整してくれました。

結果 50 人の児童が全員わたり切ることが出来るようになりました。

よかったと胸をなでおろしています。しかし歩車分離型信号は斜め横断が出来、よって 1 回で信号をわたる事が出来ます。

私の子持ちは歩車分離型信号機を今も諦めていません。

又、見守り隊について少し話をさせてください。

隊員はお年寄りが中心です。平均年齢 78 才です。最高齢は 89 才です。

暑い日も寒い日も児童の安全を守って立ってくれているのです。

そこで、行政にお願いしました。対策として若い人お願いできないのか（校区では事あるたびに要請します）

働いていることで解決できません。シルバー人材センターにお願い出来ないか。答えは堺 93 校区連合会に導入すると億というお金がかかる、非常に難しいとの事、教育委員会の回答です。

我々連合会見守り隊は無償で頑張っています。

この話は市長に届いてますか？どうかよろしくお願いします。

《山上》

ありがとうございます。様々な立場の方から現堺市政への思いが語られましたけど、野村さん、コメントをお願いします。

《野村》

すべて全くそのとおり。

今の堺市は、端的に言うとも緊縮財政なんですね。お金をしぼるという話ばかり。

ところが、これはおかしい話で、堺市の財政の財源は、皆さん方が納めた税金なんです。これを節約しますっていうことがなんかええように言われてますけども、使わないと我々には戻ってこない。納めた税金はその分ちゃんと戻して下さいというのが行政サービスなんです（拍手）。ところが堺市は今回のコロナ対策にしろ、国からたくさんの臨時交付金入りましたけど、それで何をやったか言うと、貯金に積んだのです。黒字になってる。これおかしいですよ、どう考えても。私はバラマキはダメだと思ってますが、本当に必要なところに適切にしっかりお金を使うというのが今堺市に最も欠けてる部分であると思います。

先程、お話にあった教員、講師の増員。それから、私も保育園やってますけども、保育士さんの加配の補助金。これも削られました。考えられないことをやります。それから、

私 PTA やってますので、校長先生、教頭先生に用事で電話かけたら、しょっちゅう教頭先生や校長先生が授業に行ってるんです。なんでか言うたら、教員が足りないから。教頭先生とかが授業に行かないと学校がまわらないという状況が、うちみたいな中規模校でも起きている。金岡南さんみたいな 1000 人を超える学校だと、学校運営がたいへんだと思います。ここには教頭先生を増やすとかあるいは中間管理職を増やすといった手当てが絶対必要だと思います。

それからボランティア。私も PTA や自治連合会の役をやってましたけれども、ボランティアに対する住民の方々の意識っていうのはコロナ禍の間はかなり下がってしまったと思うので、これを再生していくのは、地域の再生に繋がると思うんですけど、これを再生していくっていうのはかなりのお金と時間がかかるんじゃないかなと心配します。

ちょっと宣伝させていただきますと、金岡南小学校の前の交差点で、私も自転車でしょっちゅう通るんです。夕方とかは道に子どもがあふれかえっているんです。僕ら他人事っていうわけじゃないんですけど、見てたら子どもが賑やかに楽しそうだなと思ってるんですけど、その安全対策をされてる方は本当に大変。本当に何とかしないといけないなと思います。

シルバー人材センターに出すお金が 1 億円というと大きなお金のように感じますが、堺市の財政規模からすると 1 億円ってそんなに大きなお金じゃないです。それで子どもたちの安全が確保できるのであれば、私は今すぐにでもやるべきだと思います（拍手）。

《山上》

次に新しい市政への期待をお願いしたいと思います。

《近藤》

現在学校スタンダードと言って、学校の目指した目標目的に向かって、足並みをそろえるということがトップダウンで強いられています。利点もあるように平等であるようにみえますが、そうではありうません。各クラス同じ内容、同じ進度、同じ板書計画で授業を進めて、どこまで自分は指導ができたのか、達成度はどうだったのか数値化して示すことが求められています。授業終わりに学習効果はあったのかと問われることはいつものことで、学習効果なんて今すぐ分かるものではないし、今すぐできるようになるものでもないのです。子どももそんなところにあてはめられると学校に行きたくなくなるでしょう。数値化の中で、うまく梓にはいることがつらい子は、支援



学級行きや検査を受けることをすすめられることもあります。そんな中で支援学級も、支援学校も満員です。

また本当はうちのクラスはゆっくり学びたい子が多いからこんな感じで指導をしたいと思っていても、クラスの横並びがそうはさせてくれず、そんな中でどんどんそれに合わない子は支援学級、支援学校、不登校へと、教室の外に出ていかざるを得ない形になっています。

入り口はみんな同じ、平等にみえて、本来の平等は出口、結果の平等、それぞれが「わかった」と思えるそんな出口があることです。

現在私は 2 つの団体に関わっています。一つは大和川クラブです。堺市には児童館がありません。のびのびもありますが、学校の中であって、のびのびによっては消防法に違反して 3 階以上の空き教室を利用をした場所での活動を強いられているルームもあります

学校と共存しながら、運動場で遊ばないといけないので、半日で終わった子は体育の授業で運動場が使われているので、15 時半以降まで運動場で遊ぶことができません

地域で育つということよりも、学校やきまり、枠の中で育つという感じになっています。地域で遊べていません。街の中でいろんな人と関わって育つという意味では児童館が必要です。大和川クラブでは月に一回、川に集まって、みんなで魚を取ったり、川の清掃をしたり、土手の植物であそんだりして 2 時間過ごします。たかだか 2 時間ですが、だれからも評価されずのびのび、自分の思うように過ごして遊ぶ、その場所ではみんなが思い思いに工夫をして過ごしています。汚れてもいい恰好、濡れてもいい服装、そして網を持って、思うように遊ぶのです。本当はそういう場所が必要です。

読解力、国語の力が OECD の実施した PISA で大変低いことが問題になり、慌てて子どもの読書活動や、表現活動の推進に国は乗り出しました。しかし、触って、感じて分かること、そのことが読書以前に言葉をつくる下ざさえになります。冬の川は冷たいな、夏やのに冷たいな、風が変わったな、この葉っぱはギザギザでとげとげやな、って身体で言葉と感情の根っこをつくっていく、体感的に知らないことは言葉として理解ができない。そういうものが揃っている。でもその活動は手弁当で支えられている、本当はそういった活動にもっと予算や支援をしていく必要があります。

もう一つは、特定非営利活動法人堺子育て・教育ネットワークでの活動です。その中の一つが不登校の居場所の開所をしています。毎月一回第 2 木曜に、堺市総合福祉会館の一室で不登校の子たちの居場所を始めています。実際やってみると大変です、子どもに向き合うことは本当にエネルギーが必要でフラフラになります。残業なんかできません。

本当は学校の先生は、日々子どもと対峙しているから、フラフラです。私なんかよりずっとフラフラです、残業なんかできません。でも 4 人で 5 人分の仕事も担わないといけないし、おのずと残業も多くなり、大変です。となると退職や休職ということになってしま

うのです。本当はそういう部分を助け合って補い合って、みんなで家庭訪問をしたり、長所を生かした指導が求められるのです。少人数学級をするにしても単純に人数を減らすのではなくて、学校や学年の実態に応じて、2人担任とか、学級の人数を少なくする、など実態に応じた学校や学年ごとの弾力的な対応が必要で、そうすることで、多様性を認めていくことができるのです。となれば、教員の数の保障、しかもそれは、正規採用としての対応が必要なのです。そうすることで、子どもに表れていることは、収まってくると思います。

《山上》

森田さん、どうぞ。

《森田》

私の一番上の子、そこで手振っていたのが真ん中の五歳の男なんですけど、真ん中の子が落ち着きがなくて不安に思ってたんです。発達の相談に行ったりとか保育園のママさんとかにも「落ち着きがなくて心配やねん。」と話したら「うちもやねん。」ってなって、そしたら周りがみんな「うちも発達大丈夫なんかな」と。でもそうやって学校で受け止めてくれるから、やっぱり保育園は結構手厚く先生たちが合わせてみてくれるんです。でも、学校行ったら大人数のところは全然見てもらわれへんようになり「学校へ行けへん様ににならないだろうか」と保護者の中では不安が一杯です。

一番上の子は「学校が好き」と言っていて行ってくれているのですが、中学校に上がったら発達に遅れがあるのでいじめられへんかとか、長女の通ってる小学校4年生には9人の支援学級に通っている子どもたちがいるのです。3クラス4年生にはあるのですがクラスから2人から3人、支援学級に通ってる子がいてる。これは精神であったり知的だったりいろんな障害、障害とまでいかなくてもクラスでじっとしていられない子とかもいるんですね。

やっぱりその中で担任ひとりで30人とか35人とかを見てっていうのはすごい大変だろうなと思って、ただ先生とコミュニケーション取らなきゃいけないのでうちはよく連絡帳に連絡事項書かせてもらったり先生と密にコミュニケーションしているんですけど、やっぱりその数が少ない方が先生の負担は少ないんだろうなと日頃から感じています。

35人学級だったり30人学級めざそうと言っておられる方もおられるのですが、支援学級に所属している子どもたちっていうのは普通のクラスにカウントされてないんですよ。



なので、もし 30 マックスいましたってなると 3 人支援学級に通う子がいたら 33 人マックスで入ることになるので、やっぱり普通の学級にもちゃんとカウントしてほしいなと思っています。

これが堺市政が変わって何か変わるとかといっても、そういうのはすぐにはならないと思うんですけど、やっぱりいろんな人がその子その子にあった教育であったりとか、保育を受けれるような環境作りをしていけるように新しい市政になってほしいなと思っています。

《山上》

天野さん、新しい市政に望むことをお願いします。

《天野》

最後に申し上げたいんですけど、今子どものお話をさせてもらいました。我々は子どもだけじゃなくってお年寄りも見てるんです。お年寄りも大変な状況ですよ。だんだんお年寄りが増えていってます。この増えてるお年寄りに対する補助金もカットされています。したがって何もお年寄りだけじゃないんですよ。カットされてるのはトータルにカットされている。



もともとまちづくりというお金がありました。我々当初もらったのは 100 万円でした。この町づくりの 100 万円が 80 万円になりました。それがまた下がって 60 万円。現在 60 万です。この 60 万円というのは何が根拠でこうなっているのか、全く説明ありません。我々はこの街づくりのお金を使って地域の皆さん方と交流を図るための事業に回しています。交流を図るための事業なんですけれども、これも大変でございましてお金だけではございません。頭を使わなければいけないし、体も使わないといかん。いろんなことをやりながら現在回してるんですけど、この間コロナのためほとんどできません。そしたら「お金が余るやないか」と言われます。余るんじゃないくて、そしたらそのお金は我々が使わなかったらそのまま累計でおいただけければ問題ないんですけど、「使わなかったら返せ」という指示が来ます。したがって来年以降コロナが解消された時にどうなるんでしょうか。全くそれをベースに補助金が変わってきます。という事になりますと地域事業がしにくくなります。しにくくなりますと地域の皆さんと一緒にいろんなことをしながら人間の絆を作っていく。これが出来なくなる。お金を使わないでという方法も考えないといけないと思うんですけど、そんなうまい話はございません。

したがって今の行政のやり方では我々は本当にこれからついていけるのかどうか非常に不安でございます。是非とも新しい行政の出発として野村さんをお願いしてよろしくお願いします。

《山上》

では野村さんよろしくお願いします。

《野村》



まちづくり補助金に関しましては、使い勝手がわるいのは私よくわかってます。書類の量が膨大なんです。私が期待するのは、まちづくり補助金を 100 万円まで戻すのは、むつかしいかも知れませんが、戻したうえで、備品の購入とか飲食物に使ってはダメですよ。使い勝手がわるいから、講師謝礼とか言って、子どものイベントやってても、手品の人を呼んだりとか。そういうことで無理やり消化するってような状態になってて、本末転倒なんです。

地域の絆を育むために使うお金であれば、もっと使い勝手がよくて、いろんなことに使えるような補助金に私はすべきだと思います。

で、先程言いましたけど、コロナによってボランティアとか地域活動に対する参加意識みたいなものが今著しく低下しているのは、私は大問題だと思ってるんです。ボランティアはやったら損や、みたいな感じの風潮があるのは、私はなんとかこれを行政の支援によって、各地域地域が活性化するような取り組みっていうものをしていかないといけない。自治会の加入率もどんどん下がってますから、先程の不登校ですとか、あるいは高齢者の見守り。これも地域がなかったら絶対ケアすることはできない。一番大事なのは私は地域だと思っています。この地域の人たちのやりがいですとか、あるいはやる気っていったものを喚起するような取り組みは必要だと思います。

それから学校の先生、圧倒的に足りないのは間違いありません。それは支援学級の先生であったり、講師もそうですけれど。もう本当に足りてませんので、やっぱり人雇うっていうのが一番お金がかかることですのでなかなか難しいと思いますけれども、とにかく子ども達を見る目とそれから関わる手。これを増やす取り組みっていうのが絶対に必要だと思います。

マイスタディがなくなってしまったのは本当に残念だと思いますし、先日の議会でも議員の先生方が頑張ってもらって、「堺市の学力が下がったのはマイスタディを止めたからと違うのか」ということを追求されておられました。この因果関係は堺市教育委員会は認めま



せんでした。それは、止めたから下がったんやとは言えないと思うんですけど、明らかに、放課後の学習をやめたら成績下がるに決まっていますよね。これもなんらかの形で復活させないといけないと思います。

子どもの学力ですね、学力がすべてではないですけど、学力を上げるというのは、先ほど石井先生の話もありましたけども、簡単というわけじゃないですけど、構造としては単

純なんです。やっぱり堺市では、まず机に向かえない、学校に行けない、家で勉強する環境にない人たちそういう児童生徒が多い。そういう子ども達は、そもそも勉強する環境にないので、それを何とかしてあげるだけで絶対に学力は上がります（拍手）。90 点取っている子を 95 点にしたって平均点は大きくあがらないですよ。でも、10 点とか、場合によっては全く答案用紙に向き合えない 0 点の子ども達をなんとか 30 点 40 点 50 点、60 点 70 点まで上げてあげることがいちばん重要だと私は思っているの（拍手）、やっていく。それが義務教育の役割だと思います。

《山上》

ありがとうございました。様々な所から堺市政に対しての熱いコメント頂きました。

野村さん、期待をしております。

お別れの時間がやってまいりました。ありがとうございました。



閉会あいさつ

塩野直美さん（市民 1000 人委員会事務局）



ご紹介頂きました、堺市民 1000 人委員会事務局の塩野直美です。本日は皆さんお忙しいところ、三連休の中日にたくさんお集まりいただきありがとうございます。市長選挙への皆様の期待と関心の高さが感じられました。

ぜんじろうさんのスタンドアップコメディは痛快でたくさん笑わせてもらい元気をもらえました。

ゲストスピーチを頂いた静又三さん、石井雅彦さん、野村友昭さん、パネラーとして参加いただいた天野隆次さん、近藤真理子さん、森田奈菜絵さん。それぞれの立場から貴重なお話ありがとうございました。

やはり教育の問題が印象に残りました。コロナで大人も不安な中、子どもたちもすごく不安を抱えていて、いじめや不登校も増えている中で学校の先生の人数が足りないという問題がすごくある受けけれども「堺の教育は市長で大きく変わる」という言葉を頂いたのでは是非勝ちたいと思います。

堺市政の問題点や新しい市政で私たちが目指すべきところが、はっきりしたのではないかと思います。

私自身は、結婚してから堺に住み 13 年になります。働きながら 3 人の子育て真っ最中ですが、小学 6 年の長女が保育園に通っていた当時、堺市は子育て日本一を目標に掲げて、全国的にも進んだ政令市ならではの子育て政策を進めていました。堺市は大きい公園や自然もあって子育てしやすい街だなと思っていたことを思い出します。

維新市政になってからは、保護者として切実に感ずることは、コロナで大変な状況の中、保育・学童・学校現場は予算が削られて、そういうことが不登校の増加など子どもたちにしわ寄せがきていることを切実に感じています。先ほどから出ていましたが、先生を増やしてほしいとか少人数学級にしてほしいとかいう要望を堺市は財政危機やから仕方ない。とあきらめている市民の方もたくさんいると思います。

でも、私たちは、1000 人委員会で市政チェックを続けてきて、今の市政は必要以上に財政危機をあおって、教育や福祉だとか予算はバツサリ削っているのに、それなのにカジノ、ベイエリア関連にはお金を使っている事をはっきりとさせてきました。

今日野村さんのお話を聞いて今の市政は必要な所に予算をつけられていないんだなあと本当に感じました。先日完成した「市民にやさしい堺ビジョン」バージョン 1 には、市民の思いがつまっています。

今日の話を聞いてさらにバージョンアップさせて政策として実現させてほしいと強く思いました。今年 2023 年は、いよいよ市長選挙です。

4 月の府知事選挙でも、「カジノの中止」という事が争点になるはずですが。

堺市長選挙では、野村友昭さんと一緒に、カジノを進める維新政治は終わりにして、この 4 年で後戻りしてしまった子育て政策や市民のための堺市政を取り戻したいと思います。皆様のご支援をよろしくお願いします。

以上で閉会のあいさつとさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

市民にやさしい堺市政を創る 市民 1000 人委員会の活動

* 基本姿勢 堅牢な公共＝パブリックの再生を

北大阪偏重に抗して、南大阪の拠点としての堺市の再生

- ・思い付きのトップダウンでなく、現場との対話によるボトムアップの市政を
- ・緊縮財政でなく、市民生活や中小零細事業所サポートのための積極財政を
- ・万博・カジノ・インバウンド頼みでなく、将来を見据えた子育て積極支援を
- ・大阪府言いなりでなく、堺市民が主人公の市政を

* 市民が前に出よう。維新 vs 政党ではなく「市民 vs 維新」の構図を。

杉並の市民は、昨年 6 月の区長選挙で現職区長に対して岸本聡子さんを勝利させました。

尼崎の市民は、昨年 11 月の市長選挙で維新候補に対して元教育長新人を勝利させました。

いずれも政党が前に出ず、市民が自主的に創造的に草の根から立ち上がった成果です。

私たちも、下から自主的に、できることを、できるかたちで精一杯活動しよう。構図は、維新 vs 反維新の政党ではありません。市民 vs 維新です。

* ボランティアスタッフ大集合 活動資材をお渡しします 2 月 18 日(土) a10~12 堺市産業振興センター

一人一人の市民が、自分ができることを持ち寄り、知恵を出し合い、連絡を取り合って、励ましあいながら創造的な活動を編み出していこう。

現役世代を対象とした SNS も、ポスティング態勢も自分たちの手で。

杉並でも尼崎でも、「駅前一人街宣」が取り組まれました。いずれも女性たちが中心になって、全駅で一人でプラカードを掲げてスタンディング。堺は全駅が 27。自宅の近くの駅で。自主的に。

* 『市民にやさしい堺ビジョン (Ver.1)』を豊富化しよう

さまざまな現場の方々が下案を執筆し、熟議討論会等で練り上げました。これをベースにしてさらに豊富化し、Ver.2、Ver.3 にバージョンアップしていこう。隣の人に話しかける材料です。

* 各区に市民が集って相談できる活動拠点を作ろう

各区で生活行動範囲に活動拠点を作ろう。ビルのテナントでなくても、個人の自宅の一部屋でも、みんなで工夫して。

* 7 区それぞれが花開く『堺ビジョン』各区版を作ろう

各区ごとに集まって、それぞれの区が抱えている問題点を見つけ、街づくりについてのビジョンを紡ぎだそう。地域の方の声に耳を傾け、知恵を授けよう。

* 市民にやさしい堺市政を作る特別市民カンパを集めよう

市民は知恵も出し、身体も動かすと同時に、活動資金も自前で集めます。チラシやリーフレット、のぼりやバナーなど宣伝媒体、活動拠点の確保等に支出します。

堺市選挙管理委員会 市長選日程を 5/21 告示～6/4 投開票と決定 維新の画策で 3/26 告示～4/9 投開票も

選挙の公明・適正な実施の観点から行われたこの厳正な決定に対して、吉村府知事・松井大阪市長・永藤堺市長・維新市議らが総攻撃を行い、同日選挙持ち込みへの画策が行われています。

- * 維新市議団長・黒田征樹氏「（トリプル選回避は）市民を馬鹿にした愚かな判断。市長に（統一選の）前で辞めてもらって同日選に持ち込むことも含め、色々な選択肢を排除することなく判断していく」（『朝日新聞』12/10）
- * （松井大阪維新前代表は）維新の永藤英機・堺市長の辞職が取り沙汰されていることについて、「（永藤氏の）公約も道半ば。市長が辞めるというのは違う」と否定。永藤氏が現在1期目とした上で「財政再建からスタートして、まだ公約の半分をいかないくらい。（永藤氏は）公約をきちっとやり切るという意味を持っているし、その意思で働くのであれば辞める選択肢はない」と述べた（『毎日新聞』12/13）。
- * 永藤氏は、「選管の判断は尊重する」「任期は一定重視している。単に選挙日程を考えて（辞めて任期を）短くすることは望ましくない」と述べたものの、定例会見後にあった政務の会見では「（辞める）可能性はゼロではない」と発言。「私は維新公認で当選した首長。維新が『永藤よりもいい候補者がいる』と判断した場合は、身を引くべきだと考えている。維新の候補者と対立して戦おうとは思わない」と述べた（『朝日新聞』12/20）。
- * 吉村氏は・・・永藤氏について「財政もしんどい状況の中で4年間、頑張ってきた。1期で画期的な結果を残すのは難しいが一生懸命、堺市政に取り組んできたと思う」と評価。一方で進退については「本人の意思が最も大切だ」と強調し、「『堺市長として頑張りたい』と決断するのなら、維新としては永藤さんを公認する。他で考えている人（候補者）はいない」とした（『毎日新聞』12/21）。
- * 永藤市長は「任期の途中で辞職することはまったく考えていない」と述べた（『朝日新聞』1/11）

永藤市長が任期中（下記日程の2月議会での予算審議中）に辞職し、維新が別候補を擁立して同日選挙に持ち込んだ場合は、市長選日程は **3月26日告示、4月9日投開票**（府知事・府議・市長・市議の「4票選挙」）となります。私たちは同日選にも単独選にも政策論争を軸に臨みます。

〔堺市議会2月定例会日程と統一地方選(前半)日程〕

2月10日(金) 本会議・提案理由説明（新年度予算案など）

16日(木) 17日(金) **20日(月) 本会議 大綱質疑**

(#4/9の「50日前」=2/18)

24日(金) 27日(月) 28日(火) 予算審査分科会

#市長辞職の場合、

3月 3日(金) **6日(月) 予算審査特別委員会・総括質疑**

辞職後50日以内に選挙実施

9日(木) 10日(金) 13日(月) 各委員会

17日(金) 本会議・採決

23日(木) 大阪府知事選挙告示

〔**26日(日) 市長辞職の場合の堺市長選告示日**〕

31日(金) 大阪府議会議員選挙・堺市議会議員選挙告示

4月 9日(日) 大阪府知事・府議会議員・堺議会議員選挙投開票日（市長辞職なら堺市長選も）

【1000人委員会の輪を拡げて下さい】

賛同人を2000人に

ワンコイン500円で市政を変えよう

お知らせ、ご友人にお声をかけて下さい。

賛同人は1245人（1月31日現在）です

市政を刷新し清潔な堺市政を取り戻す市民1000人委員会

【第4期会計(中間)報告】

自 2022/05/01 至 2023/1/31

〔収入の部〕	賛同金収入	490,610円
	販売収入	36,100円（『市政レポート第9・10号』）
	YouTube視聴料	11,500円（市政チェック学習会）
	寄付金収入	2,462円
	収入の部合計	540,672円
〔支出の部〕	会議・集会費	155,763円（市政学習会、討論会）
	通信費	378,623円（『市政レポート』発送費）
	印刷費	471,176円（『市政レポート』等）
	消耗品費	34,474円（封筒、用紙等）
	支払手数料等	3,780円（振込手数料）
	支出の部合計	1,043,816円
	〔当期収支差額〕	▲503,144円
〔前期繰越金〕		777,915円（第3期末：2022年4月30日）
	〔残高〕	274,771円（2023年1月31日現在）
（内訳）	現金	185,456円
	郵便振替口座	45,510円
	ゆうちょ通常貯金	14,105円
	立替金	29,700円／計274,741円

2023年賛同金（一口500円）をお振込み下さると幸いです。

* 郵便振替口座：記号00930－7－番号325186

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンイインカイ

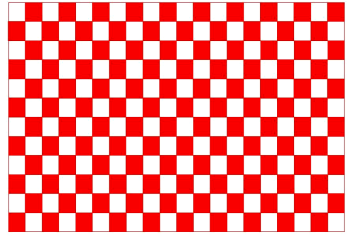
* ゆうちょ銀行・通常貯金 記号：14010 番号：69946591

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンイインカイ

他の金融機関から振り込む場合は、

【店名】ヨンゼロハチ（四〇八）【店番】408

【預金種目】普通預金 【口座番号】6994659（7桁）



2023年2月発行

編集 市民1000人委員会

発行者 市民1000人委員会

〒590-0959

堺市堺区大町西三丁1番29-502号

TEL 072-229-6331

FAX 072-242-6315

Email Q Y D04504@nifty.com

振込先

◆郵便振替口座

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンインカイ

記号：00930-7-325186

◆ゆうちょ銀行 通常貯金口座


加入者名：シミンセンニンインカイ

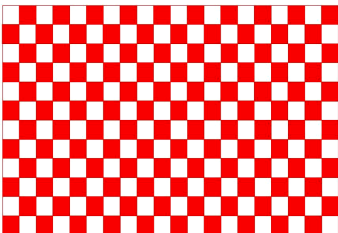
記号：14010 番号：69946591

※他の金融機関からの振り込みの場合は

店名：四〇八 ヨンゼロハチ

店番：408 種目：普通預金 口座番号：6994659

～ た た か う  市 民 ～



頒価 300円